



聖ヨハネ会だより

第32号 平成25年 6月

聖ヨハネ会本館建築にあたって

理事長 渡邊 元子

平成25年（2013）の3月末 社会福祉法人聖ヨハネ会の本館の建物が落成し、復活祭後の4月12日に、竣工式を迎えることが出来ました。

これは、聖ヨハネ会のことをいつも心にかけていて下さる全国の皆様の物心両面のご協力によるものと心から感謝申し上げます。

建築の場所は桜町病院西側の道路を挟んだ、昭和40年（1944）築の老朽化した看護婦宿舎の跡地を利用し、鉄筋コンクリート 2階建 1階には法人本部、院内保育所を、2階には集会室と自立した高齢の方用への住居5室を設けました。

聖ヨハネ会の法人本部の設置は昭和44年（1969）で、病院生みの親である戸塚神父様が、神から与えられたご自分の使命とされた桜町病院の事業開始から30年もたつてのことで、事業拡大に伴って発足したのではと推測されます。

設置以来、病院の中での仮住まいの状態が続きましたが、この度 法人本部としての事務所を得て感慨深いものがございます。

現在の社会情勢では、社会福祉法人の各事業はそれぞれ専門業務を果たし、且つ法人内の他事業との協力を求められています。法人本部は聖ヨハネ会の施設のすべてを管理監督すべき位置付けにある事を真摯に捉え、これを機会により前向きに努めてまいり所存でございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



聖ヨハネ会本館建築の経緯について

事務局長 竹川 和宏

聖ヨハネ会本館の建築については、きっかけとなったのは遡ること2年前の平成23年3月11日に発生した東日本大震災です。

未曾有の激しい地震であり相次ぐ余震の影響で、築40年を経過しているエリザベト寮

で運営していたさくらまち保育所は、夜間の保育所機能を一時桜町病院へ移すことまでにもなり、可及的速やかに安全・安心な建物内に設置する必要があるとの判断に至り、これを第一優先に建て替えを進めることになりました。また当時のエリザベト寮には、さくらまち保育所の他に桜町聖ヨハネケアビレッジ、委託職員の休憩室等があり、どこまでの機能を残し、また新たな機能をどのように設置していくかの検討を進めました。



法人本部が桜町病院の一部を間借りしていたこと、障害者地域生活支援センターが同じく桜町病院敷地内の未使用建物を利用していただけ、高齢福祉部門が新たな事業展開を望んでいること等様々な希望が出てまいりました。特に複合施設案を検討することにおいて、高齢福祉部門から高齢者専用賃貸住宅の事業展開を望む声が上がりました。小金井の地で医療・介護・福祉サービスを展開している中で、入院や特養入所にいたる前の段階で小規模でも安心して生活できる場の形成が必要との考えから、高齢者賃貸住宅を提供することの意義があるという意見でした。老後を自宅又は小金井市内にて居住したいとの要望は大変高いが、全くの在宅独居の生活は不安だという高齢者の方の住まいが求められており、同部門としても介護保険事業だけでは本来目指そうとしている高齢者の安心につながるサポートを充実できないという考えでした。対象者は自立された方で在宅介護サービスを利用し自立生活可能な方とし、介護スタッフは配置せず管理人を配置し、ケアマネジャーは桜町ケアマネジメントセンターが基本的に受け持つという基本方針で進めることとなりました。

何度もの検討を重ねた結果、院内保育所、高齢者専用賃貸住宅、法人本部という複合施設にすることとなりました。また保育所の集会室を2階に設け、法人内での集まり等にも活用できる場所を設置することとしました。建物の名称も理事会で「聖ヨハネ会本館」と決定しました。平成24年初めから具体的な設計を開始し、同年9月に着工平成25年3月29日に竣工引き渡しという運びになりました。

保育所が新しくなり、利用する職員と元気な声の子供たちを見ていると、建て替えてよかったという率直な気持ちがあり、また高齢者専用賃貸住宅という経験のない事業を進めていくことへの期待と不安が一方ではあり、そのようなことを考えているとこれからも様々な方のご支援をいただきながら当法人は進んでいくことになることとあらためて感じております。地域のためにできることを少しずつでも考えながら発信していく所存です。これからも聖ヨハネ会をどうぞよろしくお願い申し上げます。

シニアハイム さくら の完成を祝う

桜町聖ヨハネホーム 桜町高齢者在宅サービスセンター 施設長 藤井 律治

平成25年4月、聖ヨハネ会本館の2階南側に待望の『シニアハイムさくら』が完成しました。当法人が初めて手がけた高齢者向きの賃貸住宅です。

ここ10年ぐらい前から、聖ヨハネ会の高齢福祉部門では、自立されている高齢者の為の住まい等をこの敷地内に作りたいという構想がありました。何故、この敷地内に住まいを持ちたいのかと考えたのは、聖ヨハネ会を支えて下さった多くの方々の中に、小金井教会やヨハネ会修道会のすぐそばに住み、祈りで支え合いながら安心して生活したいと希望する方が少なくなかったからでした。収益率を望めば高級な有料老人ホーム案もあり、また行政が熱心なサービス付高齢者専用住宅なども候補としてありましたが、法人内で最終的に決まったのは、原点にかえり公的な補助金に左右されない当法人らしいこの高齢者向け賃貸住宅となりました。

介護保険事業だけではなく、自立されている方がこの地域で伸び伸びと生活されることをサポートするというのも我々の使命だと考え、取り組んでまいります。また運営は、この事業を理解されているボランティアの方にもご協力いただいております。私たち職員とボランティア、住人の皆さんとで、このシニアハイムでの生活がこれから始まります。

シニアハイムさくらがどのような愛の共同体になっていくのか。小さな共同体と聖ヨハネ会の新しいこの取組みが神様の御旨にしたがい一步一步進めて行けますように皆様の尊いお祈りをどうぞよろしくお願いいたします。



保育所の改築にあたって

さくらまち保育所 主任 相澤 佑子

平成25年4月より、聖ヨハネ会本館での保育が始まりました。

耐震、セキュリティー、空調、園庭や室内環境等の設備を充実して頂き、整えられた環境の中で子ども達も日々元気に過ごしています。

昭和49年に、職員が育児をしながら安心して働くことが出来るように設置された院内保育所。平日の通常保育の他、土、日、祝日、夜間も開所し、『元気で明るい子の育成を図る』を目標に、健康と安全、そして楽しく過ごすことを主眼に保育を行っています。

定員が15名から19名に増え、院内保育ではありますが、法人内の他施設の方の利用も可能となり受け入れの幅が広がりました。

当保育所は、異年齢保育を行っています。

年上の子が年下の子のお世話をする、年下の子は年上の子がしていることに興味を持ち真似てみる。

それが異年齢保育の一番の持ち味だと思っています。

トイレを例にお話しさせていただきます。

小さなお子様にとって初めてのトイレは怖いものです。行きたくないと思がる子も少なくありません。しかし、年上のお友達の様子を見ることにより少しずつ興味を持ち、自分も座ってみようという気持ちになり座ってみる。その小さな一歩がやがて習慣となり、

生活の一部として身に付いていく。今回の建て替えで、綺麗でかわいい開放的な空間に仕上げたので、よりお友達の様子が見えるようになったと思います。

相互に刺激を与えながら兄弟のような関係の中で『優しさ』や『思いやり』そして生活習慣を身に付けて欲しいと願っています。

保育室には移動間仕切りを設置して頂きました。

間仕切りを使用し、午睡室として使用したり、人数の多い時には成長段階に合わせて部屋を分けての活動が可能になりました。又、雨天時や行事の時等広い空間として使用することもでき、保育の広がりを感じています。

又、広い芝生の園庭を用意して頂きました。以前は室内で過ごすことの多かった時間帯（朝、夕方）も園庭を使用することにより、安心・安全に外で過ごせるようになり、子ども達の活動も広がりました。

これからも、育児中の職員の皆様が安心してお子様を預けることが出来、働きやすい環境を作るお手伝い出来るよう、職員一同力を合わせて頑張っていきます。



編集後記

前号でご案内をいたしました富士聖ヨハネ学園の改築工事について、競争入札の結果清水建設株式会社をお願いすることとなりました。多くの方からご寄付をいただき、誠にありがとうございます。

平成25年3月から工事がスタートし、まずは利用者さんが仮住まいをする仮設施設の整備と、インフラの切り回しを施工しております。本年8月には利用者さんの引越が終わり、本格的に改築が始まることとなります。

工事の無事を願いながら、利用者のみなさんにとって過ごしやすい施設になるように進めてまいります。(竹)

社会福祉法人 聖ヨハネ会にご援助を!!

会の福祉事業発展のために

私どもの福祉事業は大別すると下記の種類があります

桜町病院（一般病棟・療養病棟・ホスピス病棟）

富士聖ヨハネ学園（障害者支援施設・障害福祉サービス事業）

桜町聖ヨハネホーム（特別養護老人ホーム・老人短期入所事業）

桜町・本町高齢者在宅サービスセンター（老人デイサービスセンター・老人居宅介護等事業）

障害者地域生活支援センター（居宅支援・就労支援事業）

★銀行振込★

口座名 社会福祉法人 聖ヨハネ会（普通預金）三菱東京UFJ銀行小金井支店 No.4127570

★郵便局振込★ 00190-7-711126 社会福祉法人 聖ヨハネ会